

医師会のみなさん今年広報委員を担当させていただいて2年目の友利です。前回3か月目の戸惑いの中での編集後記をお送りしましたが、1年3か月たった現在でも戸惑いの中広報委員をさせていただいております。

報告の中から、平成25年度研修医歓迎レセプションの様子を石川清和理事が報告されています。例年沖縄県知事も出席され沖縄県全体で研修医を歓迎しているのですが、今回は仲井真弘多知事の代理で川上好久副知事の臨席を賜り計255名が一堂に会して研修医歓迎会を催しています。沖縄県の研修医部門の医学会賞の授与式は昨年に続いて2回目で研修医の目標の一つとなっています。1年目の初期研修医145名が満足のいく研修を受け羽ばたいていくことを望みます。第15旅団災害対処訓練研修について出口宝災害医療委員会委員長が報告されています。本年4月5日に陸上自衛隊那覇駐屯地で開催され参加されています。参加機関は、沖縄県・沖縄県警察・消防本部・市町村など多岐にわたる団体が参加され連携を図る会だったようです。突発的な災害に対して日頃から効果的な活動ができよう各関係機関と連携を図っていききたいものです。

生涯教育コーナーは、沖縄県立中部病院・消化器内科の菊池馨先生によるB型肝炎の再活性化とde novo肝炎についてです。B型肝炎キャリアや既感染者に急性肝炎が発症することがありB型肝炎ウイルスの再活性化といわれているそうです。強力な免疫抑制療法や化学療法により再活性化を惹き起こし肝炎となるようです。再活性化肝炎の特徴として重篤化・激症化しやすいため予防と早期の治療が必要とのことです。B型肝炎ウイルスの自然経過から治療までわかりやすくまとめていただいています。現在抗癌剤治療においてガイドラインではB型肝炎のチェックをおこなうように推奨されています。抗癌剤・免疫抑制剤を使用する際には、B型肝炎のチェックを忘れないようにしたいものです。

プライマリ・ケアコーナーでは、友愛会豊見城中央病院・移植外科の大田守仁先生による最近の腎移植事情～豊見城中央病院における腎移植50症例の検討からです。腎移植は透析治

療と比べADL・予後の改善に寄与しているとのことです。移植というと脳死・死体移植を思いがちですが豊見城のデータの通り日本では生体移植が圧倒的に多いのだと感じました。また手術治療の進歩、免疫抑制剤の進歩によりドナー・レシピエントともに大きな福音をもたらしているとわかりました。しかし透析患者さんは多く移植を必要としている患者さんも多いようです。患者さんのみではなく医療者にも啓発活動が必要と感じました。今後も移植を望んでいる患者さんの要望に応えられるように安全で安心な医療を提供してほしいと思っています。

行事のお知らせは、ハートライフ病院の宮城敬先生に愛の血液助け合い運動月間に寄せてを寄稿していただいています。ハートライフ病院での造血幹細胞移植から臍帯血移植、輸血使用量の紹介をされています。また赤血球の血液型の一つであるHLAに詳しく解説していただいております。また赤十字血液センターでの献血登録制度について説明いただいております。しかしながら沖縄ではまだ他府県から血液製剤を受け入れることも多いようです。できるだけ県内で確保できるように啓発活動が必要だと感じました。また血液製剤を使用しているものとして適正使用を心掛けなければいけないと思いました。

本の紹介コーナーでは、国立病院機構沖縄病院院長の石川清司先生に沖縄伝統空手から学ぶ「ケガをしない体づくり」～Quality Of Lifeメソッド～をご紹介します。病院職員の腰痛対策に取り入れ効果をあげられているようです。医療者の職業病に対して解決法の一つを提示していただけたものと思います。早速実践してみたいと感じました。

昨年は編集後記の執筆中、台風や梅雨のためすっきりしない毎日でしたが、6月に入って雨らしい雨もふらず快晴の毎日です。ダムのことは気になりますが、毎日すがすがしく働いています。会員の先生方はどうお過ごしでしょうか？天気の良い日には外にでて健康維持(メタボ対策)に努めたいものですね。

広報委員 友利 寛文